

大学と地域の連携に関する調査研究報告書

－大学のある都市としての優位性を活かすために－

2015（平成 27）年 3 月

草津市 草津未来研究所

要旨

大学を地域における重要な知的資源と位置づけ、地域の活性化に向けて積極的に活用していこうという連携の取り組みは、近年様々な大学と地域で行われるようになってきている。

草津市においても、立命館大学BKC開設20周年を契機として、大学のある都市としての優位性を活かしていくために、これからの大学を活かしたまちづくりを展望しながら、大学、学生、市民、地域、NPO、中間支援団体、企業、行政との関係づくりの具体的な取り組みを提案したのが本調査研究である。

まず、今後、18歳人口に依存した大学入学者確保は非常に厳しい局面を迎えていくことになり、2013(平成25)年に文部科学省においてこれまでの大学に対する批判を踏まえ、「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」が取りまとめられる等、地域と連携した大学運営が重要な課題の一つとなっている中で、改めて、大学と地域との連携意義を整理した。その意義としては、大学の地域貢献への取り組みに対して、地域は大学に活動の場やまちの既存ストックを積極的に提供し、大学はそこから新たな知識を獲得し、その成果を教育によって伝授し、地域の担い手となる人材を育成する。さらに新たな問題が発見されても、大学および地域が連携して問題を解決・解消することでさらなる知識の循環を形成することが重要であることがわかった。

次に、草津市における大学を活かしたまちづくりとして、総合計画における大学教育の位置づけや立命館大学をはじめとする大学との連携とその総括等を行った。その結果として、連携の手段(仕組みやシステム)が構築できていると連携が進んでいくことや、大学と課題を共有できると連携が進みやすいことがわかった。一方で、学生を地域の貴重な人材と位置づけることで連携協議の必要性も見えてきた。

そして、大学・学生を活かしたまちづくりの事例の検討を通して、地域と大学との連携による地域活性化の可能性や、学生を活かしたまちづくりの可能性を考察し、中でも、従来から草津未来研究所が持つプラットフォーム機能をさらに発展させ、地域をベースに、市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点(機能)が必要で、そうした連携拠点(機能)において、様々な取り組み等により新しい価値を創造していくため、大学地域連携拠点(機能)の設置をはじめ10の具体的な取り組みについて提案をしている。

目次

はじめに.....	1
第1章 大学と地域の連携とその意義.....	2
1 大学の社会貢献の背景.....	2
(1)大学の社会貢献の位置づけ.....	2
(2)大学改革におけるCOC構想の推進.....	3
(3)地(知)の拠点整備事業.....	3
2 連携状況.....	5
(1)自治体との取り組み実態.....	5
(2)大学教員の地域実践活動の状況.....	7
(3)産学連携等の状況.....	9
(4)大学の生涯学習事業.....	10
3 大学を取り巻く環境と課題.....	11
4 大学への期待と連携意義.....	12
(1)地域資源として、人・物・知識を備えた大学への期待.....	12
(2)地域と大学の共創まちづくり.....	12
(3)連携の意義.....	13
第2章 草津市における大学を活かしたまちづくり.....	15
1 総合計画における大学教育の位置づけ.....	15
(1)第1次、第2次の総合開発計画.....	15
(2)第3次総合計画.....	15
(3)第4次総合計画.....	16
(4)第5次総合計画.....	16
(5)小括.....	16
2 立命館大学との連携について.....	18
(1)立命館大学誘致・開設に至る経緯.....	18
(2)立命館大学誘致後の取り組み.....	20

(3) 包括協定の締結と立命館駐在事務所の設置.....	20
(4) 立命館大学とのさらなる連携協力.....	21
3 立命館大学との包括協定の総括.....	22
(1) 産業振興のための連携の総括.....	23
(2) 教育・文化・スポーツの振興・発展のための連携の総括.....	25
(3) 人材育成のための連携の総括.....	28
(4) まちづくりのための連携の総括.....	30
(5) その他両者が協議して必要と認める連携等.....	36
(6) 全国の地域貢献度ランキング.....	39
(7) その他の評価等.....	39
(8) 立命館大学側からの連携意義等.....	39
4 滋賀大学・成安造形大学・京都橘大学・龍谷大学との連携について.....	41
(1) 滋賀大学との連携協力.....	41
(2) 成安造形大学との連携協力.....	41
(3) 京都橘大学との連携協力.....	42
(4) 龍谷大学との連携協力.....	42
5 市民の視点.....	44
6 総括.....	45
(1) 連携の手段(仕組みやシステム)が構築できていると連携は進んでいる.....	45
(2) 大学と課題を共有できると連携が進みやすい.....	46
(3) 学生を地域の貴重な人材と位置づける.....	46
(4) 連携協議の必要性.....	47
第3章 大学・学生を活かしたまちづくりの事例.....	48
1 相模原市立市民・大学交流センター.....	48
(1) 設置の背景等.....	48
(2) 施設の特徴等.....	49
2 柏の葉アーバンデザインセンター.....	50
(1) 設置の背景等.....	50
(2) 施設の特徴等.....	50

3	金沢市学生のまち・金沢の推進について.....	51
	(1)金沢市学生のまち・金沢の推進の背景等.....	51
	(2)金沢学生のまち市民交流館の特徴等.....	53
4	学生タウンなごやの推進について.....	54
	(1)学生タウンなごやの推進の背景等.....	54
	(2)NAGOYA学生キャンパス「ナゴ校」の特徴等.....	55
5	小括.....	56
第4章	草津市の今後の方向性.....	57
1	大学のある都市としての優位性を活かすために.....	57
	(1)大学のある都市としての優位性.....	57
	(2)将来の展望(10年後のあるべき姿).....	57
2	今後の検討課題.....	58
	(1)具体的なまちづくりでの連携・強化のために.....	58
	(2)地域コミュニティの振興のために.....	59
	(3)地域経済を活性化させるために.....	59
	(4)大学のキャンパスを市民の身近なものとするために.....	59
	(5)学生が草津を「第2のふるさと」と考えていくために.....	59
3	今後の具体的な取り組み.....	61
	(1)プラットフォーム機能の必要性.....	61
	(2)行政の役割.....	62
	(3)取り組み提案.....	62
4	留意事項.....	67
	おわりに.....	68
	関係者一覧.....	69
	参考文献.....	70

參考資料..... 73

はじめに

大学を地域における重要な知的資源と位置づけ、地域の活性化に向けて積極的に活用していこうという連携の取り組みは、近年様々な大学と地域で行われている。

こうした大学との連携は自治体だけに留まらず、商工会議所との連携、まちづくり協議会と連携・協力協定の締結等、組織や団体と多様に結びつくことで、様々な形で地域貢献している。また、金沢市においては2010(平成22)年4月に「金沢市における学生のまちの推進に関する条例」を制定する等、学生のまちとして、学生と市民との相互の交流や学生と金沢のまちとの関係を深めている。

草津市においても、協働のまちづくりを基調とした地域の課題解決や活性化、人材育成等を図っていくためには、大学を地域の貴重な資源の一つとして捉え、今まで以上に相互の連携・協力を推進していく必要がある。

一方、大学においても、18歳人口に依存した大学入学者確保は非常に厳しい局面を迎えていくことになり、2013(平成25)年に文部科学省においてこれまでの大学に対する批判を踏まえ、「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」が取りまとめられ、大学COC(Center of Community)機能の強化が掲げられる等、地域と連携した大学運営が重要な課題の一つとなっている。

こうした背景を踏まえ、第1章では、大学と地域の連携とその意義等について整理し、第2章では、草津市における大学を活かしたまちづくりとして、総合計画における大学教育の位置づけや立命館大学をはじめとする大学との連携とその総括等を行い、第3章では、大学・学生を活かしたまちづくりの事例の検討を通して、地域と大学との連携による地域活性化の可能性や学生を活かしたまちづくりの可能性を考察している。

そして、第4章では、立命館大学 BKC 開設20周年を契機として、大学のある都市としての優位性を活かしていくために、これからの大学を活かしたまちづくりを展望しながら、大学、学生、市民、地域、NPO、中間支援団体、企業、行政との関係づくりの具体的な取り組みを提案する等、今後の「大学と地域の連携の方向性のあり方」について調査・研究を行ったものである。